

令和6年度 金光八尾中学校・高等学校 学校評価報告書

1. めざす学校像

本校では開校以来、『人はみな神の氏子である』という金光教祖の広大かつ自然な教えに基づき、すべての人に与えられている個性を生かす教育の場を願う」という建学の精神に基づき、教育方針として「確かな学力」と「豊かな情操」を、教育理念として「人間平等の教育」「個性尊重の教育」「心を育てる教育」をそれぞれ掲げ、将来を生きていく力と、真に社会に役立つ人間の育成に努めている。

1. 人間平等の教育＝人間尊重・人間平等の精神を基に、豊かな情操を育むとともに確かな学力を育成する。
2. 個性尊重の教育＝個性は他の人との比較ではなく、その人の内面にある素晴らしいものこそが個性であるとして、一人ひとりが持つ個性、特性を最大限伸ばす。
3. 心を育てる教育＝人は、お互いが助け合い、支え合って生きていることを認識し、相手を思いやる心、感謝の気持ちをもって他と接することができる心を育てる。

2. 中期的目標

「確かな学力」と「豊かな情操」を教育方針に、「常に向上をめざし努力すること」、「人を思いやり物にも感謝すること」、「ものごとくに素直に感動する心を持つこと」の三つを目標として掲げている。これらのことを基軸として、年度当初に示す学校経営方針に沿って各教職員が取り組んでいる。令和8年度からコース再編を行い入学定員の確保を行う。

(1) 学校運営

- ①生徒の実態(校種・各コース)に柔軟に対応し、個性尊重を念頭に、達成感や充実感が感じられる教科指導・生徒指導・クラブ指導に取り組む
- ②学校の安全対策と配信システム(Classi等)を機能的に活用し、保護者との連携を図る
- ③ICT教育推進部を中心に各分掌と連携をとり、業務内容を精査し効率化を図り。コスト削減に努める。
ICT教育のさらなる充実(学習アプリの活用)、と従来の授業形態の利点を融合させた効果的な教育活動の推進
- ④学園本部と「新コース改編・新コース設置」「定員充足ための施策」等について緊密に連携をとり対応できる組織の再構築
- ⑤生徒募集定員の確保に努める。
・令和7年度募集の方針として、「高校入試の出前入試」「高校入試合格の目安の一部変更」「中学校講習は知的好奇心を高める講習に再編(探究的な内容)」「募集行事の見直し(生徒の姿が見える内容)」等を行う。令和8年度の新コース改編を視野に連続性がある募集活動を行う。
・令和8年度のコース改編・新コース設置に向け、準備委員会を設置し、「(コースの特色、教育内容、セールスポイント)」「カリキュラム、講習」「入試要項」等を検討し、学園本部と連携を密にし令和7度から募集活動ができるように、令和6年度内にすべてを完成させる。
- ⑥入学した生徒は卒業まで(転退学者を出さない)

(2) 教育実践の充実

①教科指導

- ・高校の観点別評価方法、定期考査の検討、改善。生徒・保護者に納得・理解できる説明の徹底
- ・令和6年度に、「新カリキュラム」の3年サイクルが終わるで、令和8年度を目途に「現行のカリキュラム」の課題点を検討し、「新コース」「共通テスト」に連動したカリキュラムの作成に取り組む。
- ・すべての教員が自分の教科指導、授業の進め方を再点検し、生徒の実態に合わせた教科指導の改善を行う。
- ・GTECの見直し、英語資格検定試験の再検討

②生徒指導

- ・教員の校則に対する意識改革（合理的な説明、生徒の意見等を聴く機会の設定など）
- ・SNSの人権侵害の防止の観点から、生徒観察を丁寧に、変化を見逃さない学級経営の構築
- ・マイナスイメージからプラスイメージの転換（元気な挨拶、充実感・達成感のあるクラブ活動、笑顔のはじける学校）

③進路指導

- ・生徒の実態に合った講習の再検討（講習内容、講習期間、コマ数）と対費用効果の検証
- ・入試制度の研究、効果的な学校推薦制度の活用
- ・各生徒の能力や特性、個性に基づいた進路指導

④ICT教育の推進

- ・学習アプリの活用。ICT教育の急速な進歩に乗り遅れない情報収集とスキル向上に努める。
- ・統合システムの機能的運用と業務の効率化を図る取り組み
- ・情報モラル教育の徹底（外部講師による講演、定期的なHR指導）

⑤人権教育

- ・人権教育LHRの充実による人権意識（イジメ事象の早期対応）の向上と道徳・宗教情操教育の充実
- ・セクハラ、パワハラなどハラスメントの根絶

⑥情操教育

- ・人間としての生き方や在り方を考える宗教・道徳教育の研究・実践
- ・宗教の時間を通して心豊かな人間の育成

⑦家庭との連携

- ・ホームページ・インスタグラムの充実、学校通信・中学通信等の発行
- ・保護者ニーズの把握と保護者要望には丁寧・適切な対応（学年部長、管理職へのハウレンソウの徹底）

⑧広報・募集活動

- ・これまでの広報活動の手法の再検討
- ・ホームページ・インスタグラムの発信頻度の増加と内容充実。学校の魅力や特色の見せ方の工夫・改善
- ・教職員一丸となった効果的な広報活動

(3) 意識改革と資質向上

- ・「生徒による授業アンケート」等の活用による授業力の向上（管理職との面談、助言・指導・支援）
- ・教科会、各部会、学年会等の開催による情報の共有と意見交換
- ・「教職員の設定目標自己診断」を通して、管理職とのヒアリングを密にし、参画意識の醸成、企画力の育成

(4) 学校行事

- ・学校行事を精選し、時代に対応し学校行事の再構築
- ・生徒会の自主活動の推進。部活動の活性化。外部へのクラブ活動の発信（吹奏楽、ダスン部など）

【自己評価の結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

自己評価の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>教職員は情報管理、教科指導、教育課程、服務規律など基本的な業務の遂行に関して高い意識をもって業務を遂行できており、自己評価は高いものであった。また、財務関係、文書帳簿管理等の事務処理、及び教科指導に関しても評価は高く、教職員として基本的な業務に関して意識していることはうかがえる。</p> <p>カウンセリングマインドをもった生徒支援は昨年と比較して、評価が上昇しており、頭ごなしに叱るのではなく、日々の雑談のなかから様子をつかみ保護者をふくめた家庭との連携を心掛けている結果と考えている。</p> <p>中学校では、勉強を強制されている、やらされている感を払拭し、自分自身のうちから進んで取り組む自走力をつける取り組みを行う。特に今年度は校外学習で吹田の大阪万博公園、大阪大学などを訪れ、身近な進路や成人後の社会未来像を描くことが出来るように取り組ませた。また、金光八尾の魅力を発掘すると銘を打ちグループ分けをしてプレゼンをさせたり、ユニクロと共同で難民キャンプへの服の寄贈に取り組んだ。家庭にも協力いただき、小さな取り組みであっても世界につながる経験ができた。これらは探究活動として取り組んできた。また教科指導においても全国学力テストでは本校の3年生が全国平均点を10点以上も上回り、一定の結果を得、知識を活用することがこの結果につながっていると感じている。</p> <p>高校では芸術鑑賞において、生徒自身で物語の背景を調べ深く学習する意欲を感じられ、生徒たちの可能性を垣間見たものとなった。修学旅行では体験学習など知的好奇心を育成する試みを実施し、生徒の反応も良好であった。2年生では三井住友信託銀行を招き金融教育に初めて取り組んだ。投資と貯蓄といった事柄のみならず、働くことの価値観などを学ばせる機会を得た。生徒の事後アンケートで高評価を得るものであった。なお、既卒生ではあるが、創立以来初めて東京大学の合格者を出した。大学で何を学びたいのかに焦点を当て大学選びにつながる指導をしたい。</p>	<p>自己評価アンケートの中で「愛校心、教職間の連携」の項目について評価が低い点についてご批判を頂いた。コロナ以降、教職員の中でも迷いがあることが結果となっていると思われるが、今後は生徒会活動や、生徒が主体となって取り組む行事や平素の取り組みを充実させ、教員と生徒間の思いの乖離を修正して欲しいとの意見であった。学校としては今年度、十分とはいかないまでも、生徒が主体となる行事や、興味関心に基づく生徒の選択や自主的な取り組みを始動しており、内容や形態を一層厚くして次年度に取り組む旨回答し理解を得た。</p> <p>中学校での生徒の自走力向上を意図した新たな取り組みには、大いに賛同をいただき、学習に向かい合う基本的な習慣や学力向上とともに、自らが学び取る力を付けることに期待して頂いた。</p> <p>次年度から実施する、All English で行われる探究(総合学習)の時間、生徒の自立に寄り添うべく生徒指導部を生徒支援部に改組する件、クラブ活動の一層の充実、クラブ活動時間の確保策(8限講習日の一日削減)、サッカー同好会の創設などにも賛同を得た。</p> <p>令和8年度から新たに導入する、放課後学習支援や美術コースの1年次からの新設なども概要を示し、委員からは理解を得、期待される旨の賛意を頂戴した。</p> <p>学校が取り組む新たな指導内容などに対しては、保護者・PTAとしても積極的に協力するので、その方針や主眼をPTA会員に知らしめていくとお言葉を頂いた。</p>

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学 校 運 営	ア、生徒一人ひとりが達成感や充実感を感じられる教科指導クラブ活動指導に取り組み	ア、「生徒の授業評価アンケート」等を分析し、生徒の実態を考え、中学部会・学年会・教科会で検討し実践に移す。また、部活動では、時間にメリハリをつけた指導方法を工夫する。	ア、「生徒の授業評価アンケート」で 85%以上の生徒が充実した授業だと感じられるようにする。	ア、今年度は、担当するクラスの生徒を対象にアンケートを各教科担当が行った。教科、学年で分析の上、管理職から課題のある教員への助言・指導を行った。
	イ、学校の安全・安心への取り組み	イ、警察署・消防署等から講師を招き、交通安全・防災訓練、SNS、AED 等についての指導を受け、生徒はもとより教職員の安全意識を向上させる。	イ、防災訓練・交通安全・SNS 等の指導を年 1 回以上実施する。ヘルメットの着用を推進し、自転車事故について注意を促し、事故件数を 40 件以下にする。	イ、防災訓練は、八尾市消防署の緊急出動のため、立ち会いがなく教頭・生徒指導部長が指導する。交通安全指導は八尾警察交通課の協力を得て実施した。SNS 指導は、Jcom の協力を得て Zoom で実施。また各 HR で定期的に指導した。
	ウ、急速に進む ICT 教育の最新情報収集と対応できるスキルアップを図る取り組み	ウ、ICT 推進部が中心となり最新の情報収集を行い。外部への研修会への参加も促し、教員間のスキルのバラツキがでないよう教員との情報共有を図る。	ウ、学年、教科会等で最新情報を交換し、相互授業参観を行い、課題点、改善点を話し合う機会を設ける。	ウ、出停者に対して Zoom による配信授業を実施した。全教員のスキルがアップし教員同士の情報交換も進んだ。
	エ、組織の活性化による学校改革(新コース設置への意欲向上)	エ、教員が「定員確保の現状」を認識する。令和 8 年度のコース改編・新コース設置に向けて、各部、学年で討議し委員会において精査し教職員のアイデア等を反映し参画意識の醸成、企画力を育成する	エ、管理職、準備委員会と定例会議を設け、各教員のアイデア等を吸い上げし、進捗状況の確認、課題の洗い出しを行う。	エ、令和 8 年度からのコース改編について、関西福祉大学との連携をはかり、看護コースの設置を検討したが、コースではなく、希望者に対して対応するにとどめることとなった。
	オ、生徒募集定員の確保	オ、説明会個人相談ブースでの若手教員の登用。在校性からプラスイメージを発信できる学校生活の取り組みを行う。 〔中学校募集〕 在校生のプレゼン、吹奏楽部、	オ、中学校入学者 50 名、高校は、入学者 250 名（外部専願受験者 150 名、併願受験者 350 名）を目標数値とする。	オ、中学校 53 名、高校 115 名となり、中学は目標値には達したものの定員を充足したわけではないので、より一層努力したい。 高校は大幅減となった。私

		<p>ダンス部の歓迎演奏、小学生と在校生と一緒に活動するプログラム等を行う。プレテストは2回実施し特待生制度を効果的に活用し成績優秀者を確保する。「中学校講習の再編成（知的好奇心を高める探究的内容）」し特色を出す。</p> <p>[高校募集] 「高校入試の出前入試」「高校入試合格の目安の一部変更」「募集行事の見直し(生徒の姿が見える内容)」等を行う。</p>		<p>学受験者が増加したと言われているにもかかわらず、本校の専願者数は大幅に減少した。特に八尾市内の中学校からの受験者が大きく減少した。公立高校の併願者の戻り率も低かった。</p> <p>合格の目安の変更や名張会場での募集についても効果があったとは言えず、令和8年度の新コース設置に向け準備委員会での議論を行いたい。</p>
<p>教育実践の充実</p>	<p><教科指導></p> <p>ア、令和8年度を目途に「現行のカリキュラム」の課題点を検討し作成準備を行う</p> <p>イ、観点別評価を見据えた教材研究を行い授業、課題の設定を行う、定期考査は評価が反映され問題の作成を行う。</p> <p>ウ、英会話の運用力の向上を図る。大学の英語資格入試制度の変更もあり、GTEC、英検を実施方法の検討を行う。</p>	<p>ア、「新コース」「共通テスト」に連動したカリキュラムの作成に取り組む。新カリキュラムの実施に令和4年度高校1年生での課題点を検証し修正する。各教科、学年での情報交換を密にする。授業と講習とを連動し効果的に実施できているか教科で検討・研究する。</p> <p>イ、外部研修、他校の取り組み等から、情報収集を行い全教員で共有し・研究する。また、教科内での授業の相互参観を行い授業力の向上を図る。</p> <p>ウ、中学・高校でALTを活用し、英会話の運用力の向上を図る。GTECの資格検定試験の一部校外実施。英検とGTECとの比較検討をする。中学校三年間で英検準2級獲得の取り組みの実施。</p>	<p>ア、各教科、教務部で「新コース」に対応したカリキュラム・観点別評価項目の検討・作成、提案し運営委員会で検討の上改定を行う。</p> <p>イ、80%の生徒が主体的・対話的で深い学びだと感じる授業評価を目指す。年度末の評価が適正であるか検証する。評価項目について毎年度末に検討する。</p> <p>ウ、中学でのALT、高校でのベルリッツの授業を通して英会話の運用力向上を図る。また、中学校卒業時、英検準2級50%以上の取得者を目指す。中高ともにGTECスコアの向上を目指す。</p>	<p>ア、観点別評価について、成績の算出や単位認定にある課題の修正をひき続き各教科で取り組む。令和8年度を目途に、カリキュラムについて教務部・教科を中心に検討を行う。</p> <p>イ、各教科で情報共有し、観点別評価を反映させた考査問題を作成し成績、評価の公正性が担保できた。</p> <p>ウ、大学の英語資格入試制度の変更もあり、英検を校内で実施した。ひき続き他の資格検定試験との併用も考えていきたい。</p>

<p><生徒指導> ア、挨拶運動の推進</p> <p>イ、生徒一人ひとりに寄り添った丁寧な取り組みと保護者に信頼される対応</p> <p>ウ、社会・時代の変化に対応した合理的説明のできる校則の検討・変更</p> <p><進路指導> ア、新しい入試制度に対応した進路指導。</p> <p>イ、学校推薦型選抜等の有効的な活用</p> <p>ウ、転・退学の防止対策</p>	<p>ア、教員から挨拶の励行。HRでの朝の挨拶を徹底する。生徒会活動や部活動を通して生徒たちが自然と挨拶を交わせるようにする。</p> <p>イ、生徒との対話を大切に、教員と生徒との望ましい人間関係を構築する。保護者が納得できる説明を行う。</p> <p>ウ、生徒指導部を中心に、守るべき伝統、校則を柱に、生徒や保護者の意見にも柔軟に対応し合理的な説明ができる校則を検討する。</p> <p>ア、入試改革が進む中、生徒一人ひとりの特性や能力等を大切にして、将来を見据えた進路指導を行う。</p> <p>イ、生徒や保護者からの希望を受け、準備委員会を経て、推薦委員会で選考する。</p> <p>ウ、「入学した生徒は卒業まで」を合い言葉に、保護者と連携し一人ひとりに寄り添った指導の徹底を図る。</p>	<p>ア、生徒の9割以上が挨拶運動に参加していると実感できる環境をつくる。</p> <p>イ、教職員が積極的に声がけをするとともに、生徒の変化を見落とさないよう個人懇談を実施する。保護者連携を密に行う</p> <p>ウ、外部、他校との情報交換を通して、頭髪等について具体的に検討し変更する。</p> <p>ア、進路指導資料のアップデートを行う。生徒・保護者を対象の進路説明会では外部講師を招聘。大学現役合格率85%以上を目指す。</p> <p>イ、校内学校推薦型選考委員会を適正に運用し、推薦者を選考する。</p> <p>ウ、早期発見に努め保護者と連携を密に生徒との信頼関係を構築する。退学率を1%未満にする。</p>	<p>ア、生徒会とクラブを中心に5月中旬考査後から実施した。コロナ禍以前のように大きな声を出した挨拶には至らなかった。</p> <p>イ、昼休み、放課後などの時間を活用した面談を積極的に実施した。</p> <p>ウ、生徒指導部会で、合理的説明ができる校則の検討会を開き、生徒会からの意見等も吸い上げ、頭髪の校則等の一部見直しを行った。</p> <p>ア、生徒、保護者への外部講師を招聘した説明会の実施。特に3年生には、丁寧な進路懇談を実施した。大学現役入学率は87.9%であった。</p> <p>イ、学校推薦型試験は8名であった。校内学校推薦型選考委員会が適性に運用され公正な選考ができた。</p> <p>ウ、昨年度の反省から、日々の生徒観察、生徒面談、保護者との連携を大切に転退学者の防止に努めた。しかし、近年、起立性障害などメンタル面に問題を抱える生徒が多</p>
---	---	---	--

<p><ICT 教育の推進> ア、ICT 機器を活用した授業実践</p> <p>イ、新統合システムの改善と教員の効果的な運用。</p> <p>ウ、ICT リテラシーの育成(特に SNS の功罪について)とセキュリティの確保</p> <p><人権教育> ア、人権意識の醸成</p> <p>ウ、支援教育についての研修。様々な課題を抱える生徒の理解と適切な指導</p>	<p>ア、ロイロノート、ICT 教材の活用と並行し、学習アプリによる家庭学習の支援を行う。対面授業と融合させたハイブリット型授業の研究・実践を行う。</p> <p>イ、システムのアップデートを行い常時不具合の修正改良を行う。業務効率化に努める。</p> <p>ウ、目的に応じて ICT を活用できる能力と誤った SNS 使用が重大な社会問題なることを指導する。セキュリティに対する意識向を図る。</p> <p>ア、「いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめ」のない学校づくりに努める。</p> <p>ウ、最近増加する「心に課題」を抱える生徒の理解、その指導について外部講師を招き研修し、適切な指導ができるようになる。</p>	<p>ア、ロイロノートに加え学習アプリを活用できるようにする。</p> <p>イ、オペレーションを機能的に活用することで、業務の省力化につなげる。</p> <p>ウ、教員研修会を開催するとともに、生徒には、定期的に外部講師を招いた全校指導と技術科や情報の授業・HR 指導を徹底する。</p> <p>ア、早期発見、日々の生徒観察を大切にする。保護者との連携を密に。「いじめゼロ」を目指す。いじめが起こらないよう、学年で連携して対応する。</p> <p>ウ、担任だけでなく全教職員が情報共有する。生徒観察、個人懇談の頻度を増やし、保護者の連携を密にとり、早期</p>	<p>い早期発見に努め、次年度もメンタル面のケアを重点ポイントにする。</p> <p>ア、ICT 機器を使用した授業が一般的な授業となり、教員のスキルも向上した。次年度は、デジタル採点の検討を行う。</p> <p>イ、教員は日常的に新統合システムを運用し、事務処理の効率化に寄与できた。</p> <p>ウ、生徒指導部と ICT 教育推進部が連携し、教職員・生徒の啓発のための HR や研修をおこなった。ひき続き SNS の功罪を中心にさらに啓発活動を行う。</p> <p>ア、SNS 上でのトラブルの認知は難しいが、生徒との面談、日々の様子、変化を見逃さないきめ細やかな指導を継続して行う。</p> <p>イ、今年度、私学人研の義務教育部の幹事校として人権教育推進委員会を中心に外部研修に数多く参加した。他校の情報・実践などを校内にも反映することができた。</p> <p>ウ、法の改正も踏まえさらに法の主旨を深める研修を行う。</p>
---	---	---	---

	イ、教職員一丸と なった広報活動 新たな広報イベント の企画	イ、入試広報部と教職員が連携 し、受験生が参加したくなる新 たイベントの企画実施。他校の 取り組みの調査・研究を行う。	各募集行事の参加人数 に数値目標を設定す る。 イ、現場の教員と広報部 職員の意見交換を活性 化させる。イベントの 終了後、課題等を含め 改善のための会議を設 定する。	る。 イ、教職員と入試広報部の 協力体制、意思疎通が不 十分であったと思われた ので、より一層の連携を 図りたい。
意 識 改 革 と 資 質 向 上	ア、「生徒による授業ア ンケート」等の活用による授業力の向上 イ、教科会、各部会、学 年会等の開催による 情報の共有	ア、各教員が「生徒による授業ア ンケート」を活用し授業の実態 を把握する。また、教科会等で 調査結果を分析し、各教員が授 業の改善に活かす。 アンケート項目の見直し イ、教科会、部会、学年会を定期 的に開催し、情報交換や、受講 した研修内容等を報告し、情報 を共有する。	ア、各教員の授業に対す る生徒の肯定的評価が 80%以上となるように する。 イ、中学部会・各学年会を 毎週開催する。教科会・ 各部会を定例化して、 課題について検討、改 善を行う。	ア、9割の教員の授業評価は 80%以上である。80%未 満の教員には授業参観を 行い助言・指導してい く。 イ、学年会は週1回と頻繁 に開始している。科会の 開催は改善されたが、部 会の回数が増やせるよう 年間行事の調整を行う。
	ウ、学校経営への参画意 識の醸成、企画力の育成	ウ、教職員が広告塔である事を認 識する。他校の取り組みを学び、 魅力的ある学校に成るよう検討・ 研究し、企画力の充実、参画意欲 の向上を図る。	ウ、教員の各行事への改 善意欲が90%以上とな るようにする。 校外での研修会等に延べ 30人以上が参加する。	ウ、募集行事への参画意識 をより高めるため、次年 度より入試広報部との意 思疎通を図るための時間 を設定する。
学 校 行 事	ア、生徒会の自主活動の 推進 イ、部活動の活性 化と適切な活動休止 日の設定	ア、生徒会役員や各クラブ部員が 自主的・自立的に文化祭、挨拶 運動、奉仕活動等に参加するよ う支援する。 イ、部活動を通して生徒の自主活 動を推進させる。活動日、時間 については、メリハリのあるクラブ 運営を行う。	ア、生徒会役員等の提案 を大切にし、生徒の自 主活動の肯定的評価が 80%以上になるように する。 イ、部活動への入部率が、 中学で80%以上、高校で 45%以上をめざす。	ア、文化祭では生徒会が中 心となり例年通り開催さ れた。また、複数の文化 部が八尾市高校合同文化 祭に参加し他校との交流 を深めた。本校の募集行 事にも協力をしてくれ、 来校者から好評であった イ、クラブ間での活動日の 日数に差があるので、部 活動休止日の設定につい て徹底する。

